

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902116		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのⅢ		
所在地	〒070-8046 旭川市忠和6条6丁目2番24号 (電話) 0166-60-2020		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別 内		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算9.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷 金	有 (円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (8 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くにもと病院 忠和クリニック メイプル病院 ほのぼの通り歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史のある住宅街の一角を占め、菜園を囲む腰の高さの木柵の向こうは「保育園」で、外に出ると子供たちの元気な声が響いてくる。小学校や商店が並ぶ大通りから2町程神居側に入ったこの地区も高齢化が進んでいるのか、人も車も見かけない閑静なところでもある。建物の所有者が、この地区で古くから商店を営んできた人で、地域の皆さんとの橋渡しをしている。町内会も協力的で、防災訓練に所有の消火ポンプを持参して参加している。隣の保育園は当直制を採用し、夜間も常駐していることから、緊急時の支援の協力体制も整っている。利用者の散歩時も、地域の人達から気楽に声を掛けてもらい、園児との交流も行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着を目指すことで、より質の高いサービスが提供可能と指摘されている。地元の建物所有者の知名度を生かして、施設から多くの情報を提起することで、地域の現状と力を知ることが可能になる。介助・介護だけでなく、見守り、話し相手、レクの取組みが可能になる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	① 新理念を掲げ、職員のモチベーションを高め、安心と満足をもたらす施設を目指している。理念に「地域」の字句を採用したが、具体的な取組みを模索中であり、高齢化が進んでおり、町内会の行事は少なくなっている。情報発信をして地域力を掘り起こす起爆剤になることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 議事録は、報告や検討課題の項目だけでなく、内容についても記録し、又、意見・提案等についても、発言者ごとに氏名と共に内容を記録して残す。職員の異動やヒヤリ・ハットも議題に載せ、議事録は「通信」と一緒に家族に配布する。町内会は会長だけでなく、婦人部長、防災部長、福祉関係部長や民生委員の参加も期待したい。
	② 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見・苦情というと堅苦しいということで、玄関には「アイデア箱」という名前で置かれている。お便りの中に、手作り模様の便箋を同封し意見の収集に努力しているが、殆ど利用されていない。来訪時に近況の報告をし、家族から意見等を聞いている。話し合った内容は、個人のシートに記載し、ミーティングで共有している。
重点項目④	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事で春と秋の大掃除に職員と利用者が参加しているが、参加できる利用者が少なくなり、夏祭りも見に行くだけになっている。食材の調達は独自で行っていて、職員と数人の利用者が毎日店に出かけている。その一つに所有者のスーパーマーケットがあり、そこでの会話やおやつが楽しみにもなっている。隣の保育園児が時には訪ねてきて、和らいだ雰囲気をかもし出し、利用者も一緒に寛いでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	福祉法に謳われている「地域」での有り方を問い、理念の見直しで「地域」という言葉を最初に掲げ、方法・過程の模索をしながら一層の取り組みを行なっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	笑顔と真心で自立支援を行うことを全員で理解し取り組んでいる。管理者自ら率先して実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会とは、防災訓練で協力しているが、行事が少なく接する機会が限られている。隣接の保育園の園児との交流が時々もたれていて、その日を楽しみにしている。	○	施設の所有者がこの地区で長年スーパーを経営していることから、この資源が地域との橋渡しをして貰うように働きかけることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が自己評価に取り組んでいる。各項目に職員がどのような意見を表明しているのか判明しないが、ミーティングで各自が意見表明している。外部評価については、会議の中で討論を繰り返し、実現への過程や目標について協議しているが、具現化のアイデアは示されていない。	○	自己評価で、職員一人一人の意見や見解がどのような内容であったのか、記録として残す工夫を期待したい。気づきは全員同じということではなく、各職員の意識の向上や安全対策に通じることになる。

外部評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、職員の異動・ヒヤリハット・防災訓練・行事の結果と予定等を話し、意見やアイデアを求める雰囲気作りに努めている。</p>	○	<p>会議には町内会長のほか、婦人部長や防災部長、福祉に関する部長、民生委員にも参加していただくなど、サービス向上に結びつくような意見・提案が何時も出てくる会議になることを期待したい。</p>
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>7月に市の実施監査が行われた。指摘や意見はなかったが、施設側から、積極的に研修・講座の年間スケジュールとの情報を聞き出すような工夫にも努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のお便りを発送している。来訪時に報告と意見交換を通して相互理解を深めている。</p>	○	<p>推進会議の詳しい議事録を配布し報告することで、家族からの施設の運営への参加の意欲を引き出すことを期待したい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気楽に話せる管理者が配置されている。職員の接遇に感謝している家族が大半であることから、意見や要望が表明しづらいという側面を感じている人もいる。</p>	○	<p>より家族の意見要望を求め易くするために地域のボランティアの相談窓口の設置も一案です。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動が少ない施設であるが、Bユニットの管理者が退社した時に、1ヶ月の猶予期間を設け、その間に全職員が普段の生活が続けられるように努力した。加重労働も職員異動等の引き金にもなっている。家族の眼からも、ゆとりある介護力を期待されている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人本部に教育委員会を設け、各施設から担当者が集まり、研修や講座の予定と情報の収集に当たり、各職員に相応しい育成の機会を与えている。介護福祉士からケアマネージャーを目指す職員を、全員で応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会では他の施設の職員との交流会で互いに情報の交換をしている。これからは、施設相互の職員の交流を企画する。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に数回の来訪を受け、利用者・職員の動きから場の雰囲気を体験して馴染めるように勤めている。	○	ショートステイのような宿泊体験ができる機会を設けることも期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も家族の一員になって、楽しく過ごしている。言葉だけでなく、身振り・手振りでの意思表示にも的確に捉え、信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が、センター方式の各シートに記入し、中でも「私の姿と気持ちシート」に本人、家族と職員が見たまま・聞いたままを詳細に記入し、カンファレンスで情報の交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、家族・本人や来訪時の友人知人から得る情報に加え、提携医療医師や看護師のアドバイスを受け、カンファレンス等で意見の集約をしながら、計画作成担当者を兼務している管理者がケアプランの作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当の職員は、毎日の個人記録を残し、小さな変化も見逃すことなく、見守りをしている。計画の見直しは5ヶ月となっているが、加療が必要な変化には、随時関係者と話し合う機会を設け、最善の計画の練り直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「多機能性」も言葉が先行していて、意義や内容について十分に理解するところまで達していない。人的資源・健康会が持っている多様な資源をどのようときに発揮できるのか、検討の時期になっている。	○	本部の「健康会」が中心になって、ヘルパーステーションやデイサービス部門も含めて、地域の医療・福祉の有り方について、情報を発信し、地域の安心と安全の意識を喚起することを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を利用している人もいるが、協力医が至近距離にあり、24時間の医療体制が取られていることから、いつでも対応可能な協力医療機関の変更についても丁寧に話をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設利用のときに、本人・家族とも十分な意思疎通をしている。24時間の訪問医療体制を取っているので、事業所での見取りも可能であることは理解を得ている。これまで重篤なケースは出ていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時の研修では、個人情報・拘束・虐待を大きなテーマとして、周知徹底を期している。時には、無意識で子供言葉を使う職員には、その時にその場で指摘をし本人の反省と自覚を促すように指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全を基本に本人の希望要望を十分に受け入れている。昼からの動きで、外出・買い物・入浴・畑の手入れ・排泄介助等重なるときがあり、職員の手薄が生じることがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房が狭く広場に向かって開かれていないため、職員に混じって利用者が一緒に作業することは難しい。材料の仕入れから下準備には利用者も参加し、時には味付けにもアドバイスを受けている。男性職員も献立作成から調理に関わっており、自慢できる味である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴だが散歩や外仕事で汗をかくと毎日の人もいる。職員のいる昼間になりがちだが、寝る前の入浴にも対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味娯楽を活かした場面作りに取り組んでいる。限られた職員数なので、マンツーマンの対応は出来かねている。	○	地域の力や市内のエンターティナーなどを見つけてその支援を招く努力を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や食材の買い物で外出の機会を持っている。外出を敬遠する人には、隣の保育園児との交流や四季の移り変わりに関心を持たせて外出を促している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠について、消防署の指導で非常時にも鍵は誰にでも見えるところに保管するように指導を受け、実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署の指導で行っている。11月に冬を想定した訓練を予定している。隣の保育園は夜勤の警備員が常駐し、夜間の緊急時には相互支援を行う取り決めをしている。	○	スプリンクラーの設置が、近々実現することになった。建物の構造上の問題で、避難経路が表玄関の1ヶ所しかない。特に2階の避難口の確保については、専門家の意見も参考にして、最善策を練ってもらうことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取については、個人記録に残し、その日の健康状態の判断の元になっている。摂食不能な利用者の昼食に、1時間半を掛けるなど、その人に合った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・広場は秋の雰囲気を感じられる草花や手作りの壁飾りで占められている。昼間も大半の利用者がホールに集まり、テレビを見たり、会話を楽しんだり、職員と趣味に興じたりと、寛いだ雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇のある居室もあり、入居者は普段と変わらぬ生活を送っている。居室には備え付けのクローゼットが据えつけてあり、中には使い慣れたダンスを使っている利用者も居り、清潔も保たれ心地よい空間になっている。		

※  は、重点項目